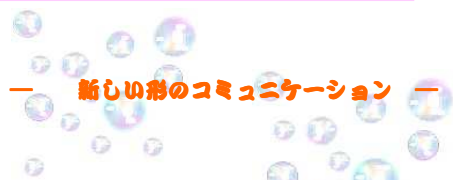


ハプティックセラピーで癒しのケア



— 新しい形のコミュニケーション —

社会福祉法人 富岳会 富岳一ノ瀬荘
介護員 鈴木 章子

はじめに

福祉の現場では介護技術・運営技術も必要とされます。
まず一番に福祉人として大切な事は「相手の心にゆっくりと寄り添ってあげる」事ではないでしょうか。

そこで当施設で、認知症緩和ケアとして注目してきた、「ハプティックセラピー」の取り組みを紹介します。



ハプティックセラピーとは……



- ・世界有数の福祉国家スウェーデンで確立
- ・「ハプティック」はギリシャ語で「触れる」に由来
- ・皮膚と皮膚とを通じて行われる
お互いのコミュニケーション
- ・多くの医療機関や介護施設で効果が認められている認知症緩和ケアの手法

目的

「触れる事」を通じて、ゆっくりと心を癒す。

- ・親密感と信頼感を生み出す
- ・認知症や障害を持つ人やコミュニケーションに困難を抱える人 → 「慈しみ」や「認められる」

という意味を感じることが出来る。

- ・自身の自意識の向上
- ・QOLの向上

期待される効果

ハプティックセラピーは次の効果が期待できます。

- ①コミュニケーション能力の向上
- ②攻撃性・自虐性の減
- ③穏やかさと安心感
- ④痛みの緩和
- ⑤自尊心の向上
- ⑥むくみの軽減

対象

ハプティックセラピーは、障害者や高齢者あるいは緩和ケアという分野にとどまらず、健康ケアや家庭あるいは教育など範囲で活用

基本的には全ての人に効果的

- ・障害を持つ方や認知症の方、緩和ケアを受けているガン患者などの医療・福祉での分野
- ・ストレスの多い現場や職場
- ・親と子の良好なコミュニケーション手段

マッサージの基本

- ①身体から手を離さない、常に触れている状況
- ②スピードはゆっくりと一定の動き
- ③手のひら・指先全体を使ってしっかり密着
- ④撫でるようにマッサージ

↓
* 力を入れずに皮膚を撫でる。

手法

一般的な筋肉の疲労回復を目指したマッサージと違い、筋肉を強く押すのではない。

↓
手や足、背中などを
両手で撫でるように
マッサージする手法



施設での取り組み

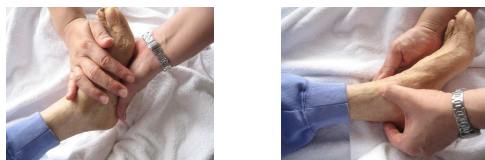
ハプティックセラピー事務局の認定施設です。
* 富岳一ノ瀬荘ではこのハプティックセラピーを平成17年より着目し、施設での日常ケアに取り入れてきました。
また、日本ハプティックセラピー事務局が認定する、正式なハプティックセラピーの研修がおこなえる施設でもあります。いち早くハプティックセラピー認定者の育成に力を入れ取り組んでおります。

手のハプティック



* 一つの部位に対して、約15分間かけて行なっています。

足のハプティック



* 一つの部位に対して、約15分間かけて行なっています。

現状

触れるコミュニケーションとして、ご利用者・ご入所者とスタッフの信頼関係を深めること・寄り添う介護に役立っています。しかし、認知症の問題行動の改善にまでは、繋がっていないのが現状です。

今後の課題①

- ・ハプティックセラピーを実施できる、職員が少ないため、毎週実施できる人数が2, 3人と限られてしまっている。その為、認定を受けた職員が中心となり、全ての職員が実施者となれるよう指導していかなければならない。

今後の課題②

- ・毎回同じ方が対象者でなく、実施記録も様式も決まったものがない為、実施状況を介護日誌に記載しているのみである。ハプティックセラピーの効果を実証するためにも、記録様式を作成し実施していきたいと思います。

最後に

当施設では効果を実証するところまでは出来ていませんが、これから先ほどの課題を改善し、認知症の方に対し効果をあげていきたいと思えます。また、ご入所様へより質の高いケア提供をおこなうべく、日々のケアで磨きをかけて行きます。